

WIN^{CONCORD} コンコード NEWSLETTER

夢をかなえるための勉強

北京大学大学院政治学研究科博士課程

副 教 授 朱 光 明

私は二年前、和歌山大学の修士課程を修了して帰国しましたが、中国で一年間の休養を経て、また北京大学の博士課程に入りました。

「なぜ、三十八才の歳でも、また北京大学の入試を受けるのか、学生の生活にはまだいやになっていませんか」と友人からよく聞かれましたが、北京大学による「入学通知書」を受け取ると、大変感動しました。

承知のように、北京大学は、中国において知的リーダーと言われております。そのために「未名湖（北京大にある湖の名前）のあるキャンパスに入って勉強したら、どんなにすばらしいだろう」という夢を抱える若者は中国でいつも多いです。私も十九年前はじめて大学入試へ申し込む時、自分の学力にすればとても無理だとわかりながら、ためらわずに関係書類にある「第一志望校」の欄に「北京大学」と書き入れました。結局、予想の通り落第したけれどもその際、遺憾の念は全然出てこなかったのです。かえって、挫折により、「ぜひ、夢をかなえるように頑張っていきたい」と決意した。そこで、去年、日本留学の経験を持って、さらにWINの皆様の励ましを汲んで、もう一度北京大学の入試へチャレンジして、ようやく、心の底に潜んでいる十八年の宿願が遂げられました。それはいうまでもなく、あまりにも遅れたものですが、自分の人生にとってひとつの満足なのだと思います。人間は、やはり理想を持ち、未来を追求することが、何よりも大切だと考え

ております。

北京大学は、中国において確かに最も学問的雰囲気を持つ学府です。自由で闊達な学風を有し、各分野の大家を擁し、大勢の勤勉で優秀な若者を集めるのみならず、幅広い国際的文化交流を行っております。ノーベル賞受賞者まで、多くの世界的に名高い学者は、ここでよく講義されます。私は現在、中国における比較政治学の第一人者のご指導のもとで、現代日本の社会構造および政治構造を研究しています。博士課程は、勉強ばかりなので、本当に苦労している一方、楽しい日々を送っております。

今年はちょうど北京大学百周年ですが、五月になると、大きな記念行事を行う予定です。そのために、今、大学全体で忙しく準備しております。ハーバード大学や東京大学のような有名校の学長五十人ならびにノーベル賞受賞者二十人による「二十一世紀の大学教育」という討議会を始め、一連の国際シンポジウムを催します。梅原猛先生、猪口孝先生など日本の代表的学者は招待されるということです。私はもちろん、和歌山からのお客様を一番楽しみにしております。



大学祭「留学生の店」

パリー レームジャン

(タイ)

私は留学生のパリー・レームジャンと申しまして、タイから来ました。こちらに來まして、そろそろ8ヶ月になります。その間、いろいろなことがありましたが、特に大学祭は楽しみでした。

大学祭は去年11月9日に行いました。食堂や図書館などに、大学祭のプログラムが貼ってありました。

「どんなことになるだろう」と思っていました。私にとって初めてで、チェンマイのラジャバットではこんなことはありませんでした。

大学祭の前に、留学生たちはいろいろな準備をしなければならなくて、私と友達は大忙しでした。その日は売るために、料理を作らなければならないからです。自分の国の料理を紹介するために、トムヤムクンを作るつもりです。ただ、私は一度も作ったことがないので、松島さんの家で作ってみました。

皆さん食べてみたら、「おいしいですよ。」と言いました。私と友達はうれしく思いました。大学祭の時、松島さんと娘さんに料理を売る手伝いをしてもらいました。私はお店の前で、お客さんと呼びました。初めてのお客さんは、若い女の人が二人でした。私は「いらっしゃいませ。」と小さい声で言いました。胸がドキドキしました。こんな言葉は言ったことがないので心配でした。お客さんは「トムヤムクンを二つお願いします」と言いました。私は「はいどうぞ。全部で400円になります。」と言いました。それで、お客さんは「ありがとう。」と言いました。私はうれしくなりました。それから次々と、お客さんが来ました。私は「いらっしゃいませ!」と大きい声で言いました。やっと午後3時くらいにトムヤムクンが全部売れました。一日中立っていたので、疲れましたがとても楽しかったです。

大学祭の日には人が多いし、駐車場もないし、とても大変でした。大学の中の道路に店が並んで、大学

生たちが、物を売ります。店によって飾りかたが違ふし、いろいろな物がたくさんありますから、目もくらむほどでした。歩いていると、どこでも音楽が聞こえてきます。それを見たら、なつかしいような感じがしました。高校生の時を、思い出しました。皆の顔は幸せな顔をしています。それを見たら、私も幸せになりました。

今回は大学祭で皆さん一生懸命仕事をしました。とにかく、皆さんに手伝って頂き、ありがとうございました。めずらしい経験をもらって、忘れられないです。本当に感謝します。



心情の駅

王慧華

(台湾)

ある年、ある月、ある日、私が砂子のように風に吹かれ、ある所についた。

そこでいろいろな人と巡り合い、彼らが私の人生に多彩な色をつけてくれた。

そこにすっかり溶け込んで住み慣れたと思ったら、冷たい風がまた私を吹き飛ばす。

あなた達に別れを告げない。

なぜなら、あなた達がもう私の心に住みついているから。

私はあなた達を連れて一緒に風に吹かれ、一緒に人生を歩んで行く。

陳 海

(中 国)

私は初めて和歌山にやって来たとき、和歌山はまさに「桃源の郷」で“楽園”のように見えた。北京から大阪、地方都市に住んだことのない私にとっては和歌山のすべてが新鮮であった。青い山、清らかな水、すがすがしい空気、とにかく和歌山に来ると、なんとなくほっとしてしまう気分になる。しかし、今回の清水町のキャンプで意外な発見があった。「この“桃源の郷”の中の“桃源の郷”」に出会ったことである。

このキャンプが毎年行われているようだが、帰国したり、大学の集中講義があったりして卒業を見込まれる今年に、やっと参加することができた。和歌山県清水町がどこにあるんやろうか、(関西弁をつこうしてもうてええんやろうか、関西弁が大好き)全然見当もつかなかった。海瀬様の車に乗って、清水町に出発した。私はかなり車に酔いやすい体質なので「これから山道を1時間以上も走りますよ」と聞いたとたん「こりゃやばいぞ」と思った。前半は予想どおり、気分が悪くなる一方であった。山道にもかかわらず、工事をやっていた。土で裸の路面が昔の北京に見えてきた。「こここそ、魯迅の筆下にあった戦時中の北京やろうか。」車は山奥に進む度に不安も募ってきた。「この先はどうなるんやろう

…」しかし、いつの間にか目の前に小川が飛び出てきた。水流の音こそ聞こえないが、ゆったりゆったり流れる様子を見ると、なんだか喜ばしい気分になっていた。たまに釣り人が現れたり、名も知らない鳥が頭の上を飛び越えたりした。そして、カーブを曲がる度に青い山をバックにして一面に広がる風景も変わっていく。私は一瞬にして、この大自然の中で無我夢中になった。車酔いどころか、このまま目的地につかずに車を走らせていただきたかった。そして、酔ったことは酔ったがこの車にでなく、この風景に完全に酔いしれた。これから行くところはここより負けない景色があるはずだと思ったら、思わず口笛を吹き始めた。

着いた、着いた、山、川、畑に面した山小屋に着いた。広い小屋の中、たくさんの人が集まっていた。WINの方々がすでに、昼食の用意をしてくれて、テーブルの上に御馳走が盛りたくさん並べられていた。しかし、私の心は既に向こうに見える小川に飛んでいってしまった。食後に早速、着替えて川に向かった。車で眺めた景色は目のすぐ前になった。ここは「大自然」なんだ。本やテレビからよく「大自然」と接触するが、実際に身を「大自然」の中に置かれると、山、水そのものが変わらないが心の隅から「感動」と言うものが沸いてきた。そして、この「感動」が分からないまま、今になった日々が愚かにさえ感じた。私の少年時代の一時は、故郷の「単東」という中国の東北にある北朝鮮に面する小さい町で暮らした。「単東」にも美しい山と川があった。



短い一年間だが毎日毎日、従兄弟と水遊びをして、山登りもした。単車はそれっきりでもう訪れることがなく北京っ子に戻った。窮屈な都市生活を当然のように思った。そして、日本に来て、大阪で過ごす日々は特に感動はなかった。せいぜい、北京よりもっと都市化が進んでいるなと思うぐらいだった。しかし、この清水町で私は少年時代の故郷の面影を見つけた。冷たい川に飛び込んで、昔のことが映画のように頭の中に映し出した「確かにその時、そのところにある地元の子に恋心も持っていた」「おばさんの家の老けた番犬を川に無理やりに連れ込んで水死させた」「おばさんが飼った鶏を毎日のように弄んだりして、その年は平年より産卵時期が一ヶ月ほど遅らせた。」「オンドルの火をつけるため従兄弟の教科書を燃やしてしまってかなり泣かれた。」あとは「伯父さんの…」書き出したらきりがいいからこのへんでやめておく。思いを走らせているうちに何人か地元の子が水遊びをしにやって来た。一瞬にして頭が混乱した。ここは一体日本だろうか、日本の子供はマンガを読んで、テレビゲームで遊んでいるんじゃないか…この「不思議」の光景から自分を抜け出すのはかなり時間がかかった。確かにここも日本だ、日本だけでもう一種の生き方をしている子供達を見かけただけである。どっちがいいかどっちが悪いかわからないが、とにかくこの大自然の中にすくすく育つ子供もいる。彼らが大人になったらやっぱりこの地から離れて行くだろうか、訳が分からなく心配し始めた。彼らの純真の笑い声を聞いた自分が再び一種の感動にふけた。そうだテレビゲームで遊んでいる子供達からこのような笑い声をかつて聞いたことがない。ここの子供の自然の笑い声と自然な振る舞いは、私にあることをしらせてくれた。それは「大自然」という言葉の本当の意味である。

「大自然」の中の物事はすべて「自然」である。気取ることがない社会の規範に縛られることはない。自由自在で自然に生きることができる。私は手足を伸ばして、やや冷たい岸の岩石に体を横にして思う存分この「自然」を喫しようとした。そして、静かに自分であることを聞かした「僕はこの自然の中自由になった。何も僕を縛ることはない。そして、ありのままで物事を表現したい。この山は青いことは

なく、この山は緑や…」

タイとマレーシアから来た留学生と合流して、この清い水を楽しんでいた。彼らは私よりずっとこの大自然に慣れている。ズボンのままにもかかわらず、自由に潜水したり、魚を取ったりした。私も昔の記憶を取り戻しながら彼らを真似しようとした。徐々に自分も潜水することができた。透けた水を通して見た水底世界は人を魅了してしまった。川の底は本当にきれいで砂もまれであった。小魚は自由に岩石のすき間を通ったり、あっちこっちに生えている水草はちょうどいいくらいでこの世界を飾った。魚を羨ましくなって仕方がなかった。気が付いたらタイの留学生たちが岸で枝を集めて火をつけて取った魚を焼き始めた。「さすが」と思った。私も彼らの陣営に入った。太い枝に魚を頭から刺し通して、焼き始めた。いよいよ、できあがった魚を口に運んだ。味が一つもないが訳分からなくおいしく食べた。頭の中に思わず「北京原人」のことを思い出した。

（もちろん、私と何の関係もない）彼らもこのようにして生活を営んだのだろうか。考えれば考えるほど興奮し、思わず一匹の生魚を口にくわえて、皆をびっくりさせた。私はこの魚をくわえたまま走り出し、なんだか解放感を感じた。途中に後藤さんと出会い後藤さんは「チン カイ、それをかじってみて。魚の味は生で食べないと味が分からない…」と言われ、私は躊躇することもなく、魚を生のままかじり始めた。（今から考えたら、自分でも不思議に思う）もちろん、かじった分を全部吐き出した。これで私は魚の味より、人間本来の味を味わうことができた。私はやはり北京原人の子孫かもしれない。

夜、楽しいバーベキューをして、星空を見に行くことになった。山頂に上るまでかなりの時間がかかった。しかも夜だったし、どこに向いて走っているかどこを走っているのか全然分からないまま、ひたすらに、前へ前と進んでいる。暗闇の中、唯一見えたのは前に走っている車の尾灯と星だけだった。そう確かに星に近づいていた。山頂について、車を降りるとものすごい寒気が襲ってきた。頭の中にすぐに「やられた」という言葉が映ってきた。私は山頂で

あっても温度は地面とたいした違いがないんだろうと思って、薄着で来てしまった。しかし、ここはまさに真冬のように寒く、シャツ一枚でどうしようもなかった。「まあ、まあとにかく展望台に行こう」と思って、展望台に上がっていた。展望台に既に一グループがテントを張って、居座っていた。「こんな寒い中、何を考えてんねん、信じられへん」と思った。とその時「きれい!」「きれい!」と言う声が絶えずに耳に入ってきた。頭をあげて上を向くと一瞬にして「うそ!」と思った。頭の上に無数の蛍がいるように空一面に星で飾られていた。「あれこそ銀河ですか」と思わずに聞き出した。しかし周囲から返事が一つもなかった。暗くて皆の顔が見えないが恐らく、皆がこの美しい星空に酔いしれていたはずであった。昼間の山水は、私はある程度小さい頃にも付き合っていたことがあるのだが、この星空は本当に生まれて初めて見たものであった。寒さなんかはもう気にしない。どの方向から見ても輝く星が空に掛けてあった。これは「銀河」なんかじゃない、これは「銀海」である。そして、見ても見ても飽きることがなかった。ついに自分もそのすぐ近くにあったテントに入って一晩中にこの景観を楽しもうと思うようになった。「そうか、だからテントを張りに来とるんや」と先のグループの“不思議”の行動を理解した。私はその夜あの山小屋で確かに星の夢を見た。

二日目にも精を出して川で遊んでいた。皆が魚を捕まえたりして、楽しんでた。最後、私は捕まえた魚を全部芦でつなぎ、魚のネックレスを作った。これも“祖先”北京原人が譲ってくれた素質があったからかもしれない。

二日目があっという間に経ってしまいました。お蔭様で、数多くの感動に出会うことができました。そして、人が傾倒させられる大自然の魅力を改めて感じ取りました。出会った山に感謝します。出会った川に感謝します。出会った星空に感謝します。そして、何よりも今回の機会を与えてくださったWINコンコードの皆様に深い敬意を表したいと思います。本当にどうもありがとうございました。

私の和歌山

ノール ハーサンナ

(インドネシア)

和歌山は私の二番目の故郷です。ここで私の暖かいライフが生まれました。どこへいっても皆がいっぱいでした。大きい家族みたいです。だから生活の心配はありませんでした。一年間、和歌山にいる間大変お世話になりました。和歌山の皆様に有り難うございました。

初めから最後の帰る日までいつも温かい心をもらいました。昨年、春桜が咲いた頃には、あっちこっちで自己紹介しましたが、今は同じ季節でもさようならをいっています。そして、さようならは一番難しいことになりました。初めに桜、ラストも桜です。すごくいい感じと思っています。

和歌山は小さい町ですけど、どこへいっても広い心の人たちに会っています。留学生だからそれは大切なものじゃないんですが。「マイダーリン和歌山」いつまでも忘れられない町です。

少し話したいことがあります。私たちはいつも楽しくて幸せなことを、沢山してもらいました。パーティや旅行やカラオケなどがありました。残念にも日本の文化はあまり体験しませんでした。よければ日本の文化も教えてくれませんか。日本のカリグラフィ(書道)とか、楽器のやり方とか祭りの踊り方をもっと面白いと思っています。この活動は皆のホストファミリーと一緒にすればいいのではないですか。これは私の意見です。

それでは、皆様と一緒に頑張りましょう。viva 和歌山とWINコンコードです。さようなら。



アサヒ飲料工場見学とスキー旅行

ジャゼミ アハマド

(マレーシア)

今年の2月27日は、WINコンコードの会社見学とスキー旅行が行われました。この活動は留学生だけでなく、日本人も一緒に参加しました。

27日の朝、8:30頃参加者はバスで和歌山大学国際交流会館から出発しました。最初の目的場所はアサヒビール工場でした。この工場は兵庫県の明石市にあります。

3時間バスに乗った後、私達はアサヒビール飲料工場に到着して、工場の人に迎えられました。後で私達は工場の中に入ってビデオを見ました。そのビデオの内容はアサヒビール工場が使った原料のことでした。ビデオを見た後、私達は工場を見て歩きながらいろいろな説明を聞きました。終わった後、私達は弁当を食べました。その時、工場の方は3人私達と一緒に食べました。その3人の中で、森本さんという人と話しました。彼は今、31才で結婚していて子供が1人います。アサヒビール工場に勤めて7年この工場では2年になるそうです。いろいろ話できて、とてもおもしろい人だと思いました。食べた後、私達は写真をとって、アサヒビール工場

を出発しました。

次は出石グランドホテル、その日の泊まるホテルでした。午後3:30、バスはそのホテルに到着しました。ホテルの係からホテルのことを説明してもらった後私達は自分のカバンを自分の部屋に運びました。私は唐海林さんと一緒に一つの部屋で泊まりました。私の部屋はとても広くて、部屋からの光景もきれいだし、とても快適だと思いました。

午後4:10、全員一階のホテルのロビーに集合しました。私達は出石町の中を歩いて行きました。この町はとてもたくさん古い建物とお寺がありました。でも一番気に入ったのは辰鼓櫓という時計の建物でした。その建物の回りは池でたくさんきれいな魚がいました。最後の場所是有子山城跡という場所でした。その場所は塀が石で作られていました。高い階段を登らなければならないけれども、上に着いた後、きれいな光景が見えました。15分後、私達は有子山城をおりてホテルに帰りました。

午後7:00、私達はホテルでカニ鍋を食べました。私はカニの食べ方があまりうまくできなかったので、エビフライだけ食べました。しかも私は、カニよりエビの方が好きだからです。食べながら私達はカラオケをしました。私も歌いましたが、歌詞を知らなかったなので、うまくできませんでした。その晩、皆さんとてもうれしかったと思います。



終わった後、ある人はホテルの温泉に行き、ある人はまたカラオケで歌っていました。でも私はすぐ部屋に帰って、テレビを見て寝ました。

翌朝、私は午前6:00に起きて、シャワーを浴びた後7:00に下において朝ごはんを食べました。このホテルの食べ物はとてもおいしくて、サービスもいいと思いました。食後、私はスキーの服を着て、ホテルのロビーでチェックアウトした後、私達はバスに乗って神鍋スキー場に出発しました。今回の旅はとてもいいと思いました。回りはたくさん山があって、きれいな川の水が見えて、初めて日本の鴨を見ることができて、気分はとても幸せでした。午前9:00ぐらいバスが神鍋スキー場に到着しました。バスが近くまで入ることができなかったため、全員歩かなければならませんでした。自分のスキー道具を持って、重い靴で1kmぐらい歩いて、とても大変でした。15分ぐらい後、私達はロープウェイの場に到着しました。ここから上にのぼるためロープウェイに乗らなければならませんでした。その日、初めて怖いことがありました。見るだけでも心臓が止まるような気がします。乗っている時、左手はしっかりと人の手を握って目は前だけ見ていました。下を見ると、とてもきれいだと思いましたが落ちると無事かどうかわからないことです。

上に着いた後、初めてスキーをやる人はスキーの基礎を習うため、2時間1人の女の先生に教えられました。その先生は年代は私より下だけどスキーのことはわたしより上です。私達は歩き方とか、止め方とか、曲がり方とかいろいろなスキーのことを教えられました。見ているときはスキーは簡単なスポーツと思いましたが本当はむずかしいです。何度も体が立てられないで倒れて、他の人にぶつかって、いろいろなことがおこりました。でもそれもおもしろいことと思いました。隣の友達が倒れて、自分自身は一生懸命立っていたかったけれども立てられなくて、自分の仲間とぶつかったりして、見ているととても笑うことが我慢できませんでした。

練習が終わった後、私達は近くの店に昼食を食べに

行きました。今回は自分のお金を使いました。その頃天気が悪くなってきたので、食べた後も私はずっと店の中に座っていました。

天気が少しよくなって、私は外に出て、スキーをしました。スキーがまだうまくできなかったため、結局私はスキーをやめて、写真をとって、雪遊びをしました。後でもう一回こわいロープウェイに乗っており、バスまで歩きました。

私達は神鍋スキー場から午後5:30に出発しました。神戸で私達は夕食をとりました。午後9:00ぐらいバスが和歌山大学国際交流会館に着きました。

ついに2日間の旅が終わりました。疲れたけれども私はとても楽しかったです。

来年多分またこのような計画があったら、私はきっと参加するつもりです。また来年の計画で会いましょう。



1997年度活動経過

- | | |
|----------|--|
| 4月 5日 | 新入生歓迎花見(和歌山城) |
| 5月17日 | WINコンコード総会・交流会 |
| 8/23~24日 | サマーキャンプ
(清水町 海瀬様宅) |
| 11月 9日 | 大学祭 模擬店協力 |
| 12月23日 | 忘年会(ボーリング、カラオケ) |
| 1/2~3日 | お正月
ホストファミリーのホームパーティ |
| 2/27~28日 | 会社見学とスキー旅行
(アサヒ飲料、神鍋スキー場) |
| 3月25日 | 卒業生を送る会 |
| 年 間 | 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与
ホストファミリープログラム
生活情報提供、相談 |

留学生紹介

大学院の部

・ Marquez Diaz Monica メキシコ／教育

Hi! I'm Monica. I'm from Mexico City where I studied in the National School for Teachers and after I got a Degree in Pedagogic Psychologist at the Pedagogic Before I came to Japan I was working in a Primary School as an Elementary School Teacher. I arrived in Japan 6 months ago. I was studying Japanese at Mie University and now I'll be in Wakayama for 1 more year. I'll do research about methodology used in teaching of art and its effects in the development of a child's personality. In my free time I like to read books (I love "HAMLET" by Shakespeare) and all the time I really enjoy listening to music. I like to dance, and when I have the opportunity I like to go to the cinema.

I hope I'll have a nice time in Wakayama Which I think is a beautiful city.

・ Patricia Acosta Alvarez チリ／教育

I'm Patricia Acosta Alvarez from Chile (Santiago City). I'm a History and Geography Teacher in the High School. I came to Japan six months ago and began studying Japanese at Mie University. Here, at Wakayama University I'm doing research about Educational Administration. I plan to stay in Japan for one more year. I like Japan a lot, I have seen beautiful places and met many very nice people. In my free time I like to read, listen to music, dance and take care of plants and flowers.

・ Champa Rajapaksa スリランカ／経済

I am Champa Rajapaksa from Sri-Lanka. I graduated from the University of Sri-Jayawardenepure. And I joined the University academic staff as a teacher of Accounting and Finance. Three years later I obtained an MBA from the University of Colombo Sri-Lanka. Last October I got the opportunity to come to Japan on Scholarship by Monbusho. And I spent the first six months at Osaka Gaidai, studying Japanese language, so I came to Wakayama this April with the intention of furthering my studies. And I look forward to an enjoyable stay here, too. I enjoy reading books, sewing and cooking.

・ Vimala Kunchambo マレーシア／経済

Hi there! I am Vimala. Another one of the Malaysian students who came to experience what life in Japan is all about. I began my life here last year April and いままでまだがんばっている。At the moment life has become a little bit busier than before as I have started my MBA lessons. However, I still manage to find time for travelling, reading, making new friends and of course not forgetting, challenging Japanese food. For all the new faces out there, はじめまして、よろしくおねがいします。

・ 楊 怡 中国／経済

私は楊 怡と申します。中国重慶の出身、大学を卒業してから上海で就職しました。大学時代の専攻は日本語です。就職先は上海正華絲綢進出口公司でした。去年の10月に和歌山に来て、現在和歌山大学経済学部大学院の一年生です。二年間の後卒業しますが、全力で頑張ります。よろしくお願ひします。

(1) 故郷

僕は1973年10月中国の沿岸都市浙江省の杭州に生まれた。杭州は美しい観光地として、中国ではとても有名な場所である。昔から「上有天堂、下有蘇杭」（上には天堂があり、下には蘇州杭州がある）という言葉がある。つまり、杭州蘇州は人間の天堂のように綺麗な所である。

蘇州の人工園林に対し、杭州は自然の景色で周知されている。西湖（杭州の象徴とも言われる）の周りは、何十箇所の名勝旧跡がある。唐の詩人白居易と宋の詩人蘇軾（東坡）は長い間杭州に住んでいたが、杭州の景色に対し、二人とも絶賛した「江南好、風光旧曾諳、日出江花紅似火、夜來江水綠如藍、誰不憶江南」白居易は千年の前から、このような杭州の美しさを描写していた絶唱を残して来た。

残念なのは、大学に入ったあと、故郷へ戻るチャンスがだんだん少なくなった。大学は上海において、一年一回、二回しか故郷へ帰れなかった。去年の十月、僕は故郷を離れて、日本へ来た。故郷の風景はいつまでも、変わらないであろう僕はずっとこのように信じている。

(2) 趣味

子供の時から、僕の体育実技の成績がいつもよくなかったが、サッカーがとても好きだ。自分がサッカーをやる事はあまりなかったが、見る事は本当に多い。高校進学試験の前夜、イタリアWカッ

プの開幕戦、アルゼンチンとカメルーンの試合、僕は復習もやらずに徹夜でサッカーを見ていた。幸いにも、試験は合格した。

大学に入った後、この趣味は変わらずに、もう一つの事が好きになった。旅行、一人旅。三年生の時、急に思いついて、僕は北京への一人旅を決意した。ついに、一番寒い時、僕は16時間列車に乗って、北京へ行った。そして、このような一人旅が大好きになってしまった。

切手は僕のもう一つの趣味だ。切手収集の時間も十六年目に入った。でも、だんだん暇がなくなってしまったから、切手との距離がどんどん遠くなっていく。

(3) 出身校

僕が通っていた大学は上海對外貿易学院という学校である。この学校は中国では一流の大学とはいえないが、就職率が上海で一番高い大学だから、入学試験は非常に難しい。

学校はとても小さくて、学生も千五百人位しかいません。その中に、毎年日本からの留学生が十何人もいます。彼らは中国語、中国文化を習うために留学の道を選んでいました。

僕の専攻はビジネス日本語という科目で日本語と貿易両方とも勉強したが、両方とも足りないと感じた。ついに、日本留学を決意した。今、和大大学院経済学研究科の学生として、新しい学習生活を始めた。



学部生の部

・申 環 娥 韓国／教育

本番の春が感じられる気配です。春としては「ちょっとあつかなあ」と思いますが、それは、やっぱり自然に囲まれているからでしょう。韓国のソウルから来た私としては、和歌山は夢で見られる自然そのものです。しかも、情であふれた人々まさに最高の所ですね！

今、私は和歌山大学の教育学部で在学していますが、これから4年の間の出来事（大学生としての生活）胸を弾ませていきます。そして、日本の多様な文化の豊かさを感じながら、学問も頑張りたいと思います。どうか、宜しくお願いします。

・Masli Njidi B Sulaiman Najidi

マレーシア／経済

私はマスリ・ナジディーです。マレーシアから来ました。生まれた所はマレーシアの一番北の州、ペルリスと言います。私は日本に来たばかりですから、不十分な所がいっぱいあります。ここでの生活は、まだ慣れていないし、日本語も簡単な言葉しか話せません。これから、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

・李 世 栄 韓国／経済

私は韓国から来たりセヨンと申します。現在経済学部に入學し、新しい環境と人との知り合い、そして教育を受けて大学の豊かさと言うか、大学生活を楽しんでいます。

思い出せば高校卒業（85年大検）以来13年間いろいろなことがあり（韓国大学の受験、兵役、就職事業そして時々の旅行など）旅人のような生活を過ごした私には、今回の大学生活が新鮮でたまらないくらいの期待と興奮の一日一日です。

常に勉強したい気持ちでいっぱいだった私には和歌山大学の4年間の生活はいままでの人生の整理作業に、今後の人生の始まりとしてとても重要な時期なので精一杯がんばりたいと思っています。最後に大学側と和歌山県の人々の留学生に対するやさしさに感謝の気持ちを表します。

・孫 文 娟 中国／経済

皆様、こんにちは、はじめまして、私はソンプンエンと申します。1992年の11月に中国の新疆ウイグル自治区ハミから日本に参りました。ハミと言えば皆様知られるようにシルクロード、あるいは敦煌の近くです。ハミはずっと緑の砂漠と言われています。なぜならば、ハミの近くに、砂漠があり、草原があり、とても美しい所です。ハミの果物はとてもおいしいです。葡萄やハミウリやリンゴなどが中国で非常に有名です。ハミは年中雨があまり降らないですが、緑も一杯です。旅行地としてとてもおもしろいですよ。また皆様お時間がありましたらぜひ一度いらっしやして下さい。私は家族が3人います。主人と子供（2才）、私です。家族3人4月3日に神戸から和歌山に引っ越して来ました。主人は和歌山大学で働いています。子供は家の近くにある保育所に通っています。新しい所でまだ慣れてはいないですが、よろしくお願い致します。私の趣味は音楽を聞くことですが、日本に来て毎日忙しいのであまり聞かないです。皆様に会うのを楽しみにしています。

・Azlan Affendi Juri マレーシア／システム

私は2年間マラヤ大学で日本語を勉強して、今和歌山大学の工学部で情報通信システムを勉強します。来たばかりなので、たくさん日本のことを知りません。でもたくさん友達が出来ていて、たくさんのがよく分かる。マレーシアの料理と日本料理がもちろんちがいます。でもだんだん日本料理が好きになります。大きな違う所はマレーシア料理がからい。日本の生活はたいへんだと思いますが、頑張っています。よろしくお願いします。

・Kamarul Afrizal B Lugiman

マレーシア／システム

はじめまして。私はカマルと申します。マレーシアからの留学生です。まず最初に私はWIN コンコードにありがとうございます。皆さんのおかげで、私がここで何でもやさしくなります。和歌山へ来る前にマラヤ大学で日本語を勉強しました。でも日本に来たばかりなので、まだまだ日

本語が上手に話せません。今は会館で住んでいます。和歌山大学でシステム工学の光メカトロクスを勉強します。システム工学でマレーシアの先輩がいないですからちょっと難しいです。今後、がんばります。わたしは、スポーツが好きです。いろいろなスポーツをするけれども一番好きなのはテニスとサッカーです。私の趣味は旅行をすることです。日本の文化と生活を学びたいです。皆さん、私に教えて下さい。

- ・Noorul Shema Zakaria マレーシア／経済
生年月日：23 April, 1978 兄弟：4人（二番）
住所：ジョホール
趣味：ゲームをやります。旅行、魚釣り
好きでかわいがっているもの：猫、魚
夢：できれば自分の会社を作りたいです。
“ 答えは忘れたところに見つかる ”
WIN の人達へ：色々お世話になりました。
「TERIMAKASHI」

- ・Krisna Khongthiap タイ／教育
私はタイのキッサナです。21才です。
私はいろいろな国の言葉を勉強したいので、日本語ももっと学びたいです。日本語は私にとってとてもむずかしいですが、私はあきらめません。
日本へ来る前、タイで観光を専攻していました。観光ガイドやホテルマン又はエアラインスタッフになるため勉強するところです。
一年間日本で勉強した後、タイの大学の4年生に戻り、勉強を続けます。日本での経験を将来生かしたいと思います。

外人と呼ばれる筈だ

ファリド サミン

（マレーシア）

時の経つのは早いもので、1996年の10月に初めて日本を訪れてから、もうすぐ1年半が経とうとしている。初めて日本に来た時の印象は…当時僕は自分の

ハートとフィーリングを慰めるのに忙しかった。出発前夜、僕の家族は僕を囲んでアドバイスやら激励注意事項、それから抱擁やいっぱい涙や…。そして翌朝、僕は既に何もかもが未知のものに見える異国の地にいた。僕にとってこんなにも外国風なんだから日本人が僕らのことを外人（エイリアン）って呼ぶのも不思議はないな。

大阪、吹田市の南千里にある外国人用の寮に入った。あれこれと設備の使い方、これをするな、あれをするな、いろいろ簡単な説明を受け、僕と友人は僕らの大学、大阪外大に翌日、登録する様に言われた。その後、荷物を部屋に置いて Z Z Z Z Z…。

次の日、異国の地での僕らの旅が始まった。ほんの少しの知識と説明、どうやって行くのか、どの電車とバスに乗るのか…そしてもちろん地図。そう、地図を持った二人のエイリアンは歩き出した。まず最初に、どうやって駅に行くんだ？あんがい簡単じゃない、地図を見ながら僕らは30分か40分歩いて駅にたどり着いた。結構早いじゃないかと思った。でも後で僕らはメインストリートを通った遠い方のルートをとった事が分かった。本当は寮の隣の公園を抜けて行く近道があったんだ…！そしたら5分か10分で駅に辿り着く。全く使いものにならないよなあ、僕。そして、もちろん僕の友人もね…。

駅に着いたら他の問題が僕らを待ちうけていた。どうやって切符を買い、いくら分買い、どの電車に乗って、どの位かかるのか…等々。何もかもが複雑に見える。大阪周辺のトレインマップや沢山の数字を見た時、一つの事に気が付いた…。本当に困ったぞって事に。それで駅員さんの一人に近付いて行って「北千里に行くにはどうしたらいい」って尋ねたんだ。もちろん英語でね。そしたら彼は日本語で答えたので僕らには分からなかった。僕らはシンプルな英語とたくさんのジェスチャーもつけて、もう一度説明した。彼が理解した時、運賃は150円だとかいろいろ日本語で僕らに伝えた。それがどんなに簡単な単語でも全く「全然わからない…」それで僕はポケットに手をつっこんで小銭を取り出した。そして

彼が小銭を必要なだけ取って、機械に入れて、ボタンを押すと…ウォ！僕たちは切符を手に入れたぞ。

次なる問題は…どの電車に乗るんだ？入口を間違うと、間違った電車に乗って、違った場所に着いちゃうんだよね。けどラッキーにも僕は正しい入口から正しい電車に乗った。僕らが降りるべき駅ではみんなも降りたし、運転手さんまでおりちゃった。だって終点だったからね。もし間違った電車に乗っていたら、天下茶屋や梅田で降りて…そして本当に困った事になっていただろうな。

北千里では52番のバスに乗ることになっていて、またまたラッキーにも終点が大学構内だった。二カ国語で全ての登録手続きを終えて…さあ、帰らなきゃ。

僕はまたしても52番のバスに乗り込んだ。ここは未知の場所なので、北千里（降りるはずだったバス停）を乗りすごしてしまった。まだバスが走り始めた時にすぐ気が付いたけど、僕は、別に前のバス停で降りるつもりじゃなかった風に、冷静を装ったんだ。それで終点の千里中央まで行っちゃって、またまた、困ったことになった。忠実で頼れる足を使うことにして、北千里まで歩き始めた。どの位かかった？そんなにからないよ…たぶん30分か45分、それとも1時間…覚えていない。でも一つだけ覚えてる事はね…汗かいたって事。それもかなりの量のね。

結局僕の経験に基づいた大きな問題はコミュニケーションにある。僕らが初めて日本に来た時、僕らのほとんどが日本語経験を持たなかった。本当にゼロ！3年、4年、もしくは5年以上日本に滞在するつもりでの全ての外人に言っとくけど、日本語勉強してマスターしておいた方がいい。そしたら、生活は随分良くなるし、日本人の友達も沢山できる。僕の事はというと、僕と僕の家族はこの3月に国に帰ります。日本での素敵な思い出を胸に…。素敵な隣人、素敵な先生、素敵な友達、素敵な人々、そして素敵な国。“どうもありがとう。そして、さようなら”

（原文は英語）

中国大学における日本語教育事情概要

姜 群 星

（中国）

日本に来て間もなく3ヶ月になる。WINコンコードの方々からいろいろお世話になっているが、先日「中国の日本語教育」について書いてほしいと頼まれたので、私の知るかぎり報告させていただこう。

1. 中国大学における日本語教育の地位

中国の大学では37の外国語が教えられている。そのうち、学習者数で見ると、日本語は英語に次いで第二位を占めているので、その重要性が十分に表されている。

ここ十数年、日本語教育は速やかに発展し、絶えず拡大し、盛況を呈した。現在日本語学科のある大学は95校前後に増えている。そのうえ、全国には千あまりの大学があるが、そのうち約半数の大学に日本語の授業（非専攻）が設けられている。理工系の学生も日本語を勉強し、日本の進んだ技術を受け入れようとしている。今、約20校の大学に修士課程があって、これまで全国において500余人の院生が日本語学あるいは日本学の修士号を取得している。博士課程は二年前から北京大学と北京外国語大学日本学研究センターの2校で設置し始め、博士号を取得した者は未だいない。

国家教育委員会（日本の文部省に相当）外国語処はよりよく日本語教育の運営を管理するため、1993年2つの指導委員会を創設した。一つは共通外国語（非専攻）教育指導委員会、もう一つは大学日本語専攻教育指導委員会である。これは日本語教育の養成目標、養成規格、課程設置、知識構造等の面で国家教育委員会の諮問機関になっている。この二つの委員会の設置により、中国の日本語教育に対する指導は強化されたといえるであろう。

2. 日本語教育大綱の制定

中国大学日本語教材編集審査組が、1986年11月に日本語専攻基礎段階教育大綱研訂組を設立した。この

組に参加した大学は北京大学等8つの大学であり、2年半にわたって大綱の原文を書き上げ、音声、文字、会話、文法、基本文型と機能意味等6つの付録を制定した。この大綱は、次のような特質が挙げられる。

- 1) 日本語の基本技能の訓練を重んじ、学生のコミュニケーション能力を養成することを強調したこと。
- 2) 言語知識と言語能力との関係をよく調和させること。
- 3) 定性と定量化を図ること。大綱では読み書き、話し聞く等教育の目的と要求を定性化、定量化し、教育の効果を検査するのに便利である。
- 4) 日本語の特質に基づいて日本語を教えること。大綱では二年生修了時、単語量は5000～5500に達することが要求されている。この大綱の作成は、中国大学における日本語教育の科学化、体系化を促し、日本語教育の発展を推し進めることになった。

3. 日本語教員の養成、研修

1970年代から80年代前半にかけての急膨張で、今日の日本語教育の規模が作られた一方、当時まだ修士課程設置校が極少のため、教員は基本的に大卒者あるいは一般社会人でまかなわれていた。それだけに1980年開設の「大平学校」（元大平正芳首相の名を借用した北京日本語教員研修センターの俗称）が、5年間で教員研修者 600名、その後進にあたる北京日本学術センターが修士課程卒業者を 240名出した他、教員研修者年間30名（95年以後20名）計340名を教育した功績は大といわなければなるまい。おかげで日本語教育界の教員の知識構造が同時期にいっせいに向上した。

全体をみれば、中心都市に集中する大学には、「大平学校」経験者と修士課程修了以上か留学帰りの者が多いだけに、日本、そして国内主要校など外との交流や研修のチャンスが多く、関係学界との共同研究に耐えうるような人材も育っている。日本語教育主要39校に対する95年の調査結果によると、教員の国内外研修の参加率は延べ 122%で、うち日本で研修したのは83%、残りの国内研修も半年以下の研修を除いて大半は「大平学校」か日本学術センターのコース（いずれも1ヵ月の日本研修旅行が含まれ

る）を修得し、平均して一人一回は、日本研修または、研修旅行に参加している。統計はないが、現場の経験からいえば、英語はじめ他の外国語学科をはるかに抜いて研修率は断じてよいと思われる。

4. 日本語教育を取り巻く環境と問題点

中国大学における日本語教育の発展は、国の経済建設と人材需要の状況や中日関係の発展などの外的な条件と深くかかわりがある。それをまとめると、次のように考えられる。すなわち、

- 1) 経済建設の発展は日本語教育の発展を促進した。
- 2) 中日国交正常化は日本語学習ブームをもたらした。

1972年中日国交正常化以来、両国間の交流の拡大につれて、中国において日本語学科を設置する大学が多くなり、社会においても日本語を学ぶ者が大いに増えた。そのピークを示した80年代の半ばは数百万人に及んだと言われる。

- 3) 学術交流における日本語の位置付けは日本語教育の発展を制約していた。

近年、中国は世界各国との学術交流がますます盛んになってきた。ところが論文の発表や、学術活動、文献編成などはほとんど英語が使われることに決まっているため、大学の非専門外国語教育においては日本語を第一外国語として学ぶ学生が減少する傾向にある。

- 4) 日本語教育の条件の不備はその教育効果に影響を及ぼしている。

中国の経済建設の発展に伴って、日本語ができる人材の養成に対する期待も高くなるのである。例えば日本語専攻の学生についていえば、日本語を学ぶだけでは不十分で、日本の社会、経済、文化、日本人の生活なども知る必要がある。しかし、今のところ中国の一般大学ではそれらの教材、資料（特に生きた音像資料）が欠乏しているため、日本語教育の質の向上と、その教育の効果にある程度影響を及ぼしている。この問題への対策として国内における日本語教育界が自身の努力を続けていくことはもちろんであるが、日本との広範囲にわたる交流および日本社会各界の協力、援助も不可欠であると思う。





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で、地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして、世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され、地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太2201-339

TEL 0734-59-3888 FAX 0734-59-3889

Homepage: <http://www.infonet.co.jp/Aso/win/indexj.htm>

E-mail : win@ns.infonet.co.jp